

答 辞

肌を刺すような冷たい空気が和らぎ、吹く風にも春の訪れを感じるようになった今日、僕たち167名はこの南部中学校を卒業します。このような場を設けていただいたことを、心から嬉しく、ありがたく思っています。

3年前の春、真新しい制服に身を包み、これから始まろうとする中学校生活に期待を持って入学してきました。ですが、新型コロナウイルスによって約1ヶ月間の休校、その後も分散登校という形でのスタートとなり、心にあった期待は寂しさと不安に変わりました。みんなと一緒に撮った写真もマスクが着用されたものばかり、話しながら楽しく食べることができていた給食も前を向いて黙って食べることになり、当たり前だと思っていたことがどれだけ大切でかけがえのないものだったのかを感じました。

だから休校明けからは授業、部活、行事など様々なことを仲間とともに経験し、空白の1ヶ月間を一瞬のうちに取り戻していった日々は今でも鮮明に覚えています。緑友祭などの行事、そして部活動を通して仲間との絆も深まっていきました。

そして2度目の春、徐々に新型コロナウイルスによる制限が緩和されてきていたものの、計画を立てて名古屋に行くはずだったフィールドワークの行き先が静岡になり、気持ちが落ち込んでしまいましたが、フィールドワークによって新しいクラスも馴染んできて、躍友祭では一丸となって取り組むことができました。

後期になり、3年生からバトンを引き継いだ僕たちは部活、生徒会、委員会など学校を中心となりました。僕たち第42期生徒会は「戮力協心」というスローガンを掲げ、N-1グランプリを活用して南部中を良くしていこうと様々なことに取り組ん

できました。

最上級生となった3度目の春、新しいクラスで迎えた修学旅行。コロナで行けるかどうかもわからず不安な気持ちがありましたが、少ない制限で修学旅行を楽しめたことは、最高の仲間との思い出となりました。その後は間近に控える部活動の大会のため練習を全力で取り組みました。どの部活も仲間とともに目標に向け、ひとつになれたことが一生の宝です。

緑友祭では、3年間で初めて全学年で行われることとなり、下級生に先輩として立派な姿を見せると意気込み、これまで以上に練習に全力で取り組んできました。本番では、どのクラスも順位が付けられないほど素晴らしい合唱をすることができました。

みんなと一丸となって取り組んだ行事が終わり、受験に向き合いました。友だちと遊んでいた時間、趣味に使った時間の全て高校に入学するため、受験勉強に注ぎました。どんなにモチベーションが低くても、どんなに結果がついてこなくても、目標に向かって努力していったことはこれからの人生の財産となるでしょう。

このように振り返っていくと、僕たちは今まで沢山の人の支えられてきました。

地域の皆様方、登下校の際に交わしてくださる挨拶が、僕たちはとても嬉しかったです。いつも地域の皆様に見守られていることで、安心して学校生活を送ることができました。本当にありがとうございました。

在校生の皆さん、あなた達が南部中学校の伝統を引き継いでいってくれて本当に嬉しく思います。これからも桜梅桃李の気持ちを持って南部中学校を支えていってください。心から応援しています。

先生方、僕達が歩んできて3年間には、いつも先生方が一緒でした。毎日のように迷惑をかけてきてしまった僕たちです

が、先生方の愛情深い指導のおかげでこうして今この場に立っています。本当にありがとうございました。

お父さん、お母さん。どれだけ心配をかけても必ず家で僕たちの面倒を見てくれたり、話を聞いたりしてくれました。本当にありがとう。これからもたくさん心配を掛けると思うけれど、あともう少しだけわがままで未熟な僕たちを見守っていてください。

最後に3年生のみんな。先生、家族など様々な人にたくさんの迷惑をかけてきて、その度に怒られてきましたね。それでもやるときには全力で、楽しんで取り組んできたこの学年全員が僕は本当に大好きです。これからの進む道はそれぞれ違いますが、南部中の3年間で育んだ絆はずっと続きます。また会えるその時まで全員が胸を張って、笑顔でいましょう。ありがとう。

3年間、仲間とともに歩んできた南部中学校での日々が今日で終わりとなってしまいます。この3年間で学んできたすべてのことをこれからの人生の糧となるでしょう。今日までの日々を僕はずっと忘れません。これまで関わってきた全ての人に感謝をし、答辞とさせていただきます。ありがとう、皆さん。ありがとう、南部中学校。そして、3年生のみんな、卒業おめでとう。

令和5年3月16日
卒業生代表 磯部健士郎